

室生犀星記念館 金沢市千日町3-22 TEL (076)245-1108
 【入館料】300円(高校生以下無料)
 【開館時間】9:30~17:00(入館は16:30まで)
 【休館日】年末年始、展示替期間



ふるさと金沢を愛した文豪 犀星文学にふれるミュージアム

雨宝院に程近い室生犀星の生家跡に建つ記念館。犀星の生涯がわかる年譜をはじめ、直筆原稿や書簡、初版本などの貴重な資料を一堂に展示し、その生き方や魅力に気軽にふれることができる。吹き抜けのホールにディスプレイされた150点余りの表紙装丁も見応えがある。



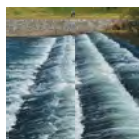
**金沢市
西茶屋資料館** 金沢市野町2-25-18 TEL (076)247-8110
 【入館料】無料
 【開館時間】9:30~17:00(無休)
 ※金沢観光ボランティアガイドまいどさん常駐

大正のベストセラー「地上」の作者 島田清次郎の生涯を紹介

にし茶屋街の西端、島田清次郎が少年期に移り住んだ茶屋「吉米楼」の跡地に建つ。1階では清次郎に関する様々な資料を展示するほか、朱塗りの壁や金屏風が艶やかな2階では当時の茶屋の雰囲気味わえる。玄関横のウィンドーには加賀獅子頭や獅子舞装束も展示されている。



↑ 寺町通り／表紙写真は雨宝院の相輪 →



発行 金沢市観光交流課

金沢市広坂1-1-1 ☎076-220-2194 FAX076-260-7191
<http://www.kanazawa-kankouyukai.gr.jp>



金沢旅物語

検索

2013.3 発行



静音の小径

寺町寺院群

美しき川は流れ、ゆつたりと時は流れる。

金沢三寺院群のなかで最も規模が大きく、約70もの寺社が集まっているここ寺町には、忍者寺で有名な「妙立寺」、国指定天然記念物の大桜がある「松月寺」、人骨で作った延命地藏尊を安置する「大門寺」など、それぞれに歴史と物語を伝える寺社が軒を連ね、その町名にふさわしい風情と佇まいを遺している。

また、毎週土曜の夕方には梵鐘が空に鳴り響き、「残したい日本の音風景100選」にも選ばれている。境内や路地に建つ数多くの文学碑を訪ねてみると、格子戸と石畳が続く「にし茶屋街」を覗いてみるのもおもしろい。



歩く、観る、祈る。

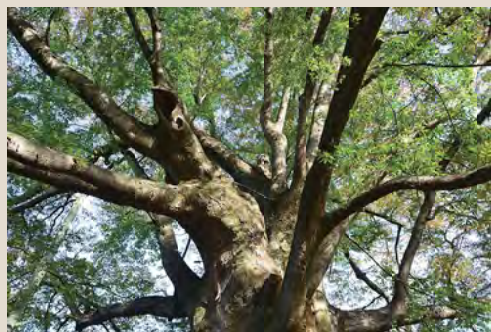
金沢三寺院群の旅

金沢三寺院群とは

元和2年(1616)ころ、加賀藩三代藩主・前田利常は金沢城の防備や寺社の管理、人別(現在の戸籍)を行うため、さらには一向宗対策として、城下に散在していた寺社を3か所に移転・配置した。城の南東にある「小立野寺院群」、北東の「卯辰山山麓寺院群」、南西の「寺町寺院群」。それぞれに趣きのある3つの“寺のまち”を歩けば、知らなかった金沢が見えてくる。まずは一番訪ねてみたい寺院を決めて、その近隣を巡ってみてはどうだろう。

TERAMACHI
TEMPLE AREA

「静音の小径」を歩く



北陸一の繁華街・片町から、野町・寺町へ。犀川大橋を渡ると、金沢はその表情を大きく変える。

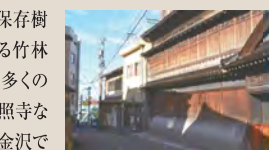
橋詰の交番を右折してすぐの雨宝院は、文豪・室生犀星が養子として幼少期を過ごした真言宗の寺。少し先の生誕の地には「室生犀星記念館」が建っており、故郷金沢を原点とした犀星の生き方や文学の魅力に触れることができる。雨宝院の筋向かいを入ると左手に高い石垣が続く。ここは文政の頃からの縁起物「あぶり餅」で知られる神明宮の裏手にあたり、境内には樹齢一千年と言われる大ケヤキがそびえている。隣に並ぶ豪姫ゆかりの大蓮寺を道なりに進むと「にじ茶屋街」が見えて

くる。入口横には駐車場と休憩所が完備され、西茶屋資料館には観光ボランティアガイドも常駐。一階にはこの茶屋街で育った大正のベストセラー作家・島田清次郎に関する資料などが展示されている。

三味線の音が聞こえる組合事務所の横小路を進み、南大通り(野町)へ。横断歩道を渡ると、右手に松尾芭蕉の弟子・小杉一笑の菩提寺である願念寺が目に入る。山門横には芭蕉が追悼の席で詠んだ「つかも動け 我が泣く声は 秋の風」の句碑が建ち、物悲しさを誘う。細い道は忍者寺で有名な妙立寺横へつながり、旧



鶴来街道に出ると数多くの寺社が軒を連ねる通りが続く。道なりに歩けば六斗の広見。藩政時代、火災の延焼を防ぐため各所に設けられた金沢の広見の中では最も広い。ここから泉野方面へ足を向けると、市の保存樹林指定で三代利常の命による竹林が残る龍淵寺や境内入口に多くの石仏がある前田家ゆかりの月照寺など趣のある寺院が点在する。金沢で



は珍しい赤門の興徳寺を経て寺町大通りへ出れば、景観上重要な山門と築地塀が続き、荘厳な佇まいを見せる寺院が通り沿いに連なる。寺また寺の、まさに寺町である。

いくつか紹介しよう。寺町一丁目では陶製の狛犬がユニークな関野神社。桂岩寺は五百羅漢の拝観がお薦め。三丁目では樹齢400年のドウダンツツジがある妙法寺。四丁目では本

堂と鐘楼が市の指定有形文化財となっている立像寺と高岸寺を訪ねてみたい。五丁目に来れば、金沢の地名にゆかりがある寺で阿弥陀如来が国指定重要文化財となっている伏見寺をはじめ、樹齢400年の大桜で有名な松月寺、逆立ちした狛犬がユニークな諏訪神社、山門の柱を邪鬼が支える浄安寺、朱塗りの欄干が美しい極楽寺など見どころが多い。

往時の面影をしのびながら、ゆつくりと散策し、様々な寺院を訪ねる旅の時間。「美しき川は流れたり」と犀星が詠った犀川が、いまでも眼下を静かに流れる。

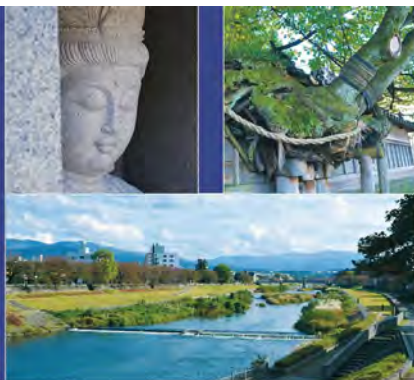


やさしく微笑む石仏たち。
夕暮れの鐘が心に静かに響いてくる。

寺院・神社めぐり

静音の小径

の寺院は拝観不可です。



長造山 本長寺 C4
評観 境内のみ 建物内 拝観不可
宝暦12年(1762)の大火で焼失後、学僧・日露らにより再建。本堂内での壁画は現在制作中である。国内では珍しいフレスコ壁画で描かれた「釈尊伝」が拝観できる。前庭には芭蕉の「春もや、けしき調ふ月と梅」の句碑が建てられている。



稲荷山 真長寺 D4
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
宝暦12年(1762)商家からの出火で付近269軒が焼失する大火があったが、境内の稲荷社は無事であった。稲荷社は金沢城内出火の折に預けられた社。類焼が免れたのは稲荷社の威光であるとして「真長寺稲荷霊異記」が伝えている。



太白山 寶勝寺 E4
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
美濃(岐阜県)の禪僧・千岳宗初禪師が創建した寺。千岳禪師は三代利常からの信頼が厚く、また能筆で文章力にも優れていたため、利常からも小松の禪天満宮様札の揮毫を命じられた。山門および本堂は創建当初の建物と考えられている。



金隆山 承証寺 E4
評観 境内のみ 建物内 拝観不可
寺内の鬼子母神には安宅間の沖合より浮かび上がったといわれる鬼面があり、年1回節分会に開帳される。本堂板戸に描かれた絵は、江戸時代の商家・依願宗達の手とされる。境内には幕末に勤王説を唱えた藩士・福岡惣助の墓がある。



安養山 極楽寺 E5
評観 境内のみ 境内外 建物内 拝観不可
後醍醐天皇の皇子・初祖八宮明心仏眼法親王の木像を安置。朱塗りの欄干は格式の高さを表している。三代利常が、越中(富山県)守山極楽寺の第一世・智賢上人に帰依し、金沢に招いて創建した。丈六の阿弥陀仏も広く知られている。



慈光山 西方寺 F4
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
当初、越前府中(現・越前市)にあったが、前田利家の息女有能が没した翌年の天正12年(1584)、金沢城付近に菩提寺として建立。元和2年(1616)当地に移った。有能の肖像画や、利家奉納と伝えられる天神画があり、「胎児地蔵」を安置。



真如山 三光寺 F4
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
明治11年(1878)、大久保利通を東京の紀尾井町で暗殺した高田一良たちの集会所であったことで知られている。そのたまたまの首謀者たちは「三光寺派」と呼ばれた。山門は平成3年(1991)に石の仁王門として現住職自ら制作し再建。



寶方山 堅正寺 G2
評観 境内
正徳3年(1713)、菩提により現在地で創建された。



統一山 立正寺 H2
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
承応2年(1652)、光要院日達上人を開山として、源入山本光寺を創建。前田家に仕えた勤王の志士・不破富太郎、金沢の経済発展に多大な貢献をした明治初期の貿易商・関中孫平の各墓所がある。昭和初期に現山号・寺号とする。



無碍山 西然寺 G3
評観 境内のみ 建物内 拝観不可
昭和24年(1949)に創建された。現堂宇は昭和46年に建てられたものである。



泉野菅原神社 G3
評観 境内のみ 建物内 拝観不可
建武元年(1334)、越中国守の畠山三が越中前新田郡に菅原道真を祀る社殿を造営。慶長10年(1605)、二代利長と玉泉夫人が富山に在城時は玉泉寺を崇敬し、高岡への入城後は社殿を同地へ。利長の死後、玉泉夫人は金沢へ移ると共に泉野に社殿を遷座した。



光福山 玉泉寺 G4
評観 境内のみ 建物内 拝観不可
二代利長夫人であり織田信長の五女・玉泉院が、三代利常に請うて玉泉院を創建。玉泉院没後、玉泉寺と改め玉泉院の位置所となる。境内の奥には、玉泉院の供養塔と言われる五輪塔が残されており、往時の面影が偲ばれる。



大亀山 龍徳寺 G4
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
前田長種家の菩提寺。長種は創建した前田長定の嫡男で、初代利家の長女・幸姫をめぐり、従五位下村馬守に任ぜられた。山門は薬師門、脇門は辰巳瓦葺で、慶安年間に近いものと見られる。精巧かつ華麗な朱塗彫子「野子人舎利塔」がある。



東光山 月照寺 H4
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
初代利家の長女・春桂院(幸姫)の菩提寺。三代利常より寺地が増えられ大伽藍を建立したが六斗の大火で焼失。現在の建物は前田家の屋敷の一部を移転し再建した。石仏は卯辰山の33体と鶴来街道の33体の観音仏を集め安置したものである。



本願山 龍雲寺 G4
評観 境内
輪島市にある大本山總持寺祖院内、芳春院の大昌文意和尚を開山とし、寛文元年(1661)土屋勘四郎が創建。勘四郎は藩主に忠誠を誓う証として、一向宗から禅宗に転じた。檀家・土屋又三郎は近世農政における日本三傑といわれる。



金昌山 興徳寺 G5
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
羽咋市妙成寺の末寺で天保元年(1844)秀閑日受が宝達山に建てた寺が起り。寺蔵の鬼子母神像は前田家の家臣、青磁焼きの祖・諏訪録山の作。山門の紅い門は当山に安置の加藤清正公が朝鮮出兵の武運長久の祈願の為と伝えられている。



河北郡俱利伽羅山の長楽寺の僧・弘誓を開山に迎えて創建。十代重政の頃より前田家の祈願寺となる。不動明王、歡喜天、毘沙門天、千手観音を祀る。大仏さまの六角堂として有名。堂は十二代齊広の産母・貞勝院の発願により建立された。



天祥山 桂岩寺 K11
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
文化6年(1809)の海運天麟和尚の発願により五百羅漢安置がはじまる。その後、20世円成和尚、21世欄干和尚が残り、の尊像を完成。昭和37年4月火災により焼失したが、復興を発願し、昭和62年に完成奉賛法要が行われた。



祭神天照皇大神は延徳年間(1489〜92)に關野伊右衛門が泉野の新村領地を開墾した際、土中より出現したもの。これを祀り神明宮としたことが起り。拝殿内や境内の樺の木にかけられた天狗の面は、厄除、災難除として信仰されている。



当初、珠洲郡上戸村にあったが、泉野の地で寺領を拝領し、天明元年(1781)当地に移った。中興は弁誓和尚であり、現在の建物は江戸後期のものである。



元和9年(1623)、丹波国円通寺の住持であった融山泉祝和尚が、加賀藩家老・横山長知の請を受け、八坂で松山寺を建立。その後隠居して結んだ庵が寺の起り。3000坪を有する伽藍となるが、幕末の廃仏毀釈で堂宇は消滅した。



水原山 妙福寺 H7
評観 境内・境内外 建物内 拝観不可
慶安2年(1649)、実成寺八世・本覚院日春の創建。当寺は加賀藩士・岡本右太夫ゆかりの寺でもある。右太夫は参勤交代の途次、金沢へ帰郷の際、孟宗竹2株を持ち帰り移植した。この地におけるタケノコ生産の礎を築いた人物といわれている。



元和元年(1615)、京都本能寺第12世伏見宮日承の弟子・真淨院日得を開山に迎えて創建。横山康玄乳母の菩提所となる。その後横山家の懸願により今の寺地を拝領。北条氏直の重臣松田家や関流剣術の開宗者松田の菩提所でもある。



延宝4年(1676)、野田寺町覚源寺の遺址である現在地に移り長久寺を建立。当寺は、前田利春の三女で初代利家の妹・津世の菩提寺でもある。境内には芭蕉の碑や、横瀬400年近くになる金沢市保存樹の銀木犀がある。



前田家の重臣・高島石見守の菩提寺で寛永13年(1636)に建立。高島家は初代利家の正室まつの実家。境内にあった茶室「翠雲軒」は三代利常の命名。本堂・鐘樓・附櫓は金沢市の有形文化財に指定されている。永代供養塔(合祀墓)有り。



天正13年(1585)、仏蔵院日敬上人が越中関野に創建。神保安雲守長純の室・天心院殿妙典日敬大師が開基。慶長14年(1609)金沢河原町に移り、元和2年(1616)現在地に移転。「神龜三具足」は金沢宮崎藩九郎義一作で市指定文化財。



元和9年(1623)、越中高岡本寺の弟子・円重院日覚が創建した。開基旦那は二代利長に仕えた中將といふ女中で、中將は日覺の姉にも当たる。境内には、加賀藩邸の際のお仏(貝組院)とかかわりのあった前田家の墓もある。



室町初期に創建の「八幡宮」が起源と伝えられ、三代利常の時に野村宗頼と大平右京が申し、鷹狩の新狩のため信州、諏訪神を勧請、合祀した。祭神は、建御名方神、春日御命。毎年旧暦7月26日の夜、特殊神事・月拝祭が行われる。



宝徳山 大蓮寺 D3
評鑑 境内 建物内 重要文化財

初代利家の四女・豪姫の位牌所として知られる。野田山にある豪姫の五輪塔の墓を今も守り、豪姫の位牌と念持仏である聖観音を寺宝として安置。境内には豪姫と夫・宇喜多秀家の供養塔をはじめ茶室・堂後屋、櫓等、藤田維正などの墓がある。



杉谷山 徳法寺 D3
評鑑 境内 建物内

天和2年(1682)僧宗人の創建になる。明治初期の大失火で焼失し、現在地に再建されたものである。



杉谷山 瑞泉寺 C2
評鑑 境内のみ

寛永年間(1624~44)創建。石川郡押野の土宮寺に越中国井波の瑞泉寺第8世・准秀の次男・宣心が入寺、瑞泉寺と改名した。当寺には親鸞聖人御真影、蓮如上人御真筆番号および触頭文書を含む17,838点もの古文書が残されている。



木一山 願念寺 E3
評鑑 境内のみ (日よりの拝観不可) 原形なし(狂妻堀あり)

境内に松尾芭蕉の「塚もうごけ我が泣く声は秋の風」の句碑があるが、この句は奥の細道の旅の途中、弟子・小杉一笑の死を知って詠んだ句。小杉家の菩提寺でもある。一笑の辞世の句「心から雪うつくしや西の雲」の句碑も建っている。



宝雲山 因徳寺 E3
評鑑 境内 建物内

六本柱の山門・本堂ともに、創建の年代に近い江戸初期の様式を残しており、本堂の向拝虹梁および簷桁が趣深い造りになっている。本堂は一尺七寸の阿弥陀仏像。境内には狂歌で一世を風靡した瀬波屋鶴馬の墓がある。



安楽山 弘願院 E3
評鑑 境内

正保2年(1645)創建。延宝2年(1674)に再建した本堂は、江戸中期の貴重な建物。寺宝には金沢市文化財指定の絹本刺繍の仏涅槃図や、面僧・心岩作の寒山拾得図などがある。また、墓所には加賀藩御典儀・池田玄真の墓がある。



正久山 妙立寺 E4
評鑑 境内 建物内 資料 寺内蔵(仏堂不可)

三代藩主前田利常の命により、1643年に加賀藩祈願所として創建された。金沢城の出城としての役目を持つと言われ、落とし穴や隠し階段など種々の仕掛けが施され、迷路状の複雑な構造を有することから「忍者寺」と呼ばれている。



永徳山 金剛寺 F4
評鑑 境内 建物内 重要文化財

開山は天正年間、前田大炊の第三子が出家し、越中(富山県)射水郡守山の海老坂に創建したことが起こり、その後三代利常の時代に現在地に移った。本堂には、能登末森城の守り本尊であったと伝えられる観世音菩薩像が安置されている。



延寿山 常松寺 F3
評鑑 境内のみ

慶長16年(1611)、長門町(現・片野)にあった山崎長徳の下郎内に創建。越前南条郡高瀬の宝門寺住職・寛山を請うて開山した。寛永12年(1635)現在地に移転。明治期に伽藍を焼失したため、江戸後期の座禅堂を本堂としている。



神皇山 香林寺 F3
評鑑 境内 建物内 資料

加賀藩士・青木五兵衛が三代利常に願ひ出て創建された寺。青木は御影堂を造り利常の位牌を安置。青木家の家伝・菅原道真の両像も納めたが、出火により御影堂は焼失。天保4年(1833)作の不動明王は霊宝不動尊として知られる。



厚加山 國泰寺 F4
評鑑 境内

一代利長夫人・玉泉院の二十回忌法要の際、小松から三代利常がお参りに訪れ、装束を当寺で改めたと伝えられる。境内の秋葉権現を祭る堂は大仏せの神として尊信されている。タカジャスターゼ創製の高峰譲吉博士の菩提寺でもある。



堪忍山 少林寺 F3
評鑑 境内 建物内

寺宝として十一面観音像や菅原道真の像があり、本堂内には十三代齊泰から授かったとみられる「前田齊泰公奉納」の文字が刻まれた精密な常夜灯がある。当寺所有の梵鐘は、名工・宮崎家雄の手によるもので美しい音色で知られる。



長久山 千手院 G3
評鑑 境内 建物内

初代利家はこの寺を崇敬し、末森の合戦以降、歴代藩主の祈願所となった。寺宝・十一面観音は前田家よりの頼りものなどという。前田家からの祈願書状が入っていた「経筒」は、精巧な毛彫で鶴亀と松竹梅の吉祥紋様が施された名品。



普照山 光専寺 G2
評鑑 境内のみ

文明年間(1469~87)、僧・慶縁が蓮如上人に従って加賀を布教した折、石川郡で創建。3世・慶縁の時、佐々成政の重臣・黒川又右衛門が当寺に入っており4世となった。慶縁は本願寺と曹洞宗の紛争の際に本願寺のために功を成した。



本門山 本覚寺 H3
評鑑 境内のみ

創建に関わった三輪志摩長好は三代利常に願ひ御骨堂を建立。二代利長の分骨と位牌を納めた。利長夫人であり織田信長の五女・玉泉院はしばしば当寺に参詣したという。はじめは本長寺と稱番で前田家領内回流派寺の触頭を務めた。



龜福山 希翁院 H4
評鑑 境内のみ

境内には竹田忠順や富永家などの墓がある。竹田忠順は火消役で寺社奉行や公事奉行を務め、連歌を好んだ加賀藩家臣。富永助信、助盛らは代々藩に仕えた武士で香林坊に住み、「福は内、鬼も内」と言って豆まきをしたことで知られる。



草嶺山 開禪寺 H3
評鑑 境内のみ

慶長4年(1599)は、二代利長と共に高岡から移転。加賀八家の一つ長家の菩提寺であり、六代普連、七代連起、八代連愛ら一族が葬られている。長連徳の娘で、利長の養女となり、前田美作守直直の継妻となった久香院(求光院)の墓もある。



雲松山 龍湧寺 F4
評鑑 境内のみ

天正10年(1582)、尾張にて創建。抵津に移転の後、加賀藩家臣・前田長種を介し犀川川原に寺地を拝領し再建。境内には三代利常の命による藩主公用の竹林が残る。曹家・独角宗麟や、加賀古流生花の始祖・近藤理清の墓などがある。



清生山 本是寺 I3
評鑑 境内 建物内

慶安2年(1649)本是院日理上人が創建。守護神「七面大天女」像は、日蓮宗総本山身延山久遠寺31世・一門日親上人より遺された身延七面山の尊像と同時。明和3年(1766)法儀法会を厳修、金沢の日蓮宗寺院で受け継がれている。



瑞雲山 龍徳寺 I4
評鑑 境内

正保4年(1647)の創建で、天徳院二代竜徳が開山であり、僧竜徳が開基である。後一時無住の寺となったが、天徳院五代の良因によって再興された。



一深山 林幽寺 J5
評鑑 境内

慶長15年(1610)、僧了善が石川郡窪村で創建した。享保17年(1732)、現在地に移転。鎌倉時代の作である聖徳太子2歳の木像を安置する。



涌金山 玄光院 I6
評鑑 境内のみ

承応元年(1652)、根峯源政の創立。大正2年(1913)に永福寺を合併した。本尊の普光寺式阿弥陀如来立像は黄金色の仏像。肉脇には観音、勢至の両金剛製の菩薩像が侍立している。現在の建物は江戸後期のものである。



徳本山 昌柳寺 H8
評鑑 境内のみ

文禄4年(1595)、七尾城主であり「富田流剣法」中興の祖・富田治部左衛門興六郎景政の兄・富田治部左衛門興五郎景家が檀越に母の菩提寺として創建したことが起こり、昭和22年、「本門佛立宗」の一宗独立に伴い、今日に至る。



大徳山 妙法寺 H7
評鑑 境内 建物内 重要文化財

天正元年(1573)開基。円智院妙浄寺雲尼は初代利家の弟、佐藤藤八郎良之の息女で、開基持仏の鬼子母神像奉安。墓所には藤氏・内藤蘭州、金沢歌舞伎の風流者、俳人・杉原竹女などの墓があり、市指定天然記念物のドウゲンツツジがある。



永正山 実成寺 H7
評鑑 境内 建物内 重要文化財

由来書によれば、十代重教の生母・実成院から国家安泰の祈禱を命ぜられたとある。宝暦11年(1761)、実成院が没すると当寺において葬礼が行われ、霊屋が設けられた。実成院の法号は、当寺の号を採ったと思われる。



長久山 本性寺 H7
評鑑 境内のみ

天正14年(1586)、越前府中本興寺より教院日有上人を招き創建。墓所には加賀藩に仕え、富山県の国宝瑞龍寺、羽咋市の妙成寺、気多大社、小松市の郡谷寺、小松天満宮などを造営した名工・山上善右衛門の墓がある。



妙布山 立像寺 G7
評鑑 境内のみ

創建に三代利常の祖母・寿命院の再婚小幡家が木材を寄進。そのため小幡家の定数松皮菱が欄間に彫られている。第22世日尊上人が子弟訓育のための光光園を創設し、日蓮宗近世教学の発祥地とも言われた。境内にはキリシタン灯籠がある。



五智山 大門寺 G6
評鑑 境内 建物内 重要文化財

寛永元年(1624)開山は母賢是伯上人で、大坂夏の陣で戦死した父・大門宗時大居士を供養したため草庵を建立したことが起こり。3代・心岩作の「人骨地蔵尊」は、無縁仏を哀れみ、骨を砕いて焼り込めた高さ4メートル余りの延命地蔵尊。



石基山 伏見寺 F5
評鑑 境内 建物内 資料 国史館蔵(仏堂不可)

本尊の阿弥陀如来像は平安初期の金銅仏の力作、国の重要文化財。金沢の地名発祥にまつわる芋堀五郎ゆかりの寺。金沢観音霊場第14番札所。また唐座堂にある本願寺の不動明王坐像は、弘仁期(810~24)の作と伝えられる。



鹿嶋山 松月寺 F9
評鑑 境内 建物内

境内には「大桜」とも「御殿桜」とも呼ばれる有名な老桜がある。これは本寺中興主岸和尚が三代利常(1673)作の「寄木作」阿弥陀如来坐像は、金沢四大大仏の一つに数えられている。八臂臂財天、大黒天、毘沙門天の3体を奉る。



岩松山 浄安寺 F5
評鑑 境内 建物内

初代利家と同じ尾張宛出身の良蓮社白雲松上人が天正3年(1575)、利家の命を受けて建立。延宝元年(1673)作の「寄木作」阿弥陀如来坐像は、金沢四大大仏の一つに数えられている。八臂臂財天、大黒天、毘沙門天の3体を奉る。



安楽山 妙慶寺 D4
評鑑 境内 建物内

初代利家の家臣・松平康定は利家と越中の佐々成政と交戦の際、極楽寺を本陣とし戦勝。後に寺は康定に伴い金沢に移り妙慶寺と改名。元日金沢市協会の会長で男子金メダル監督の成松平康隆氏、国連日本初代大使松平康東氏の祖先墓がある。



高森山 成学寺 D4
評鑑 境内 建物内

本堂は創建当初のままの切妻・平入・棧瓦葺・向拝付きで、書院造りのな江戸初期の建築様式が見られる貴重な建物。境内には俳人・柳屋水村が建立した「あかあかと山はつれなくも秋の風」の芭蕉の句が刻まれた「蕉翁墳」がある。



柳川山 常德寺 D8
評鑑 境内 建物内 重要文化財

文安元年(1444)、本願寺5世・持如上人の弟子・覺雲法師が能美郡西山に一字を創設し浄徳寺と号す。やがて聖徳太子の夢のお告げによって同郡龍川に移転。本願寺第15世・常如上人の一字を賜り常德寺に改名。梵鐘は初代・宮崎家雄の作。



八阪神社(祇園社) E5
評鑑 境内 建物内 重要文化財

藩制、城下鎮座社として創建。主な祭神として素戔鳴尊、祇園天神、大黒天。故事によれば酒造厄除、和歌の元祖、学問、医療の神。鳥居は往時貴重な赤戸張り、樹勢旺盛な青桐がある。社殿には戦ヶ岳合戦図。藩制入城時使用の太鼓がある。